

氏 名：松尾 尚美

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 165 号

学位授与年月日：2018 年 3 月 12 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）

副査 松谷 美和子（聖路加国際大学教授）

副査 吉田 千文（聖路加国際大学教授）

副査 手島 恵（千葉大学大学院看護学研究科教授）

論 文 題 目：「看護師の患者アドボカシー概念に基づく意思決定支援力測定尺度」の
開発

博士論文審査結果

看護師には生活や価値観に合った治療を納得して意思決定することに困難を抱える患者を支援する、患者アドボカシーの役割がある。しかし、そのような患者アドボカシーを可視化するための測定尺度が不足している。そこで本研究は、患者が自律した意思決定が行えるように支援する看護師の実践を、患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力と定義し、それを評価できる尺度を開発することを目的とした。

調査対象は、全国の病院で協力同意が得られた 63 施設に勤務する看護師とした。有効回収数は 755 部(回収率 44%、有効回答率 98.7%)であった。内的・因子的妥当性の検討を経て最終的に 25 項目 6 因子の構造(信頼性係数 $\alpha = .945$)の尺度を作成した。6 つの下位尺度は、【選択肢の情報提供と価値観の明確化を支援する力】、【十分なサポートとよりよい決定を支援する力】、【不安や不確実性がないことを支援する力】、【選択肢の情報提供と医師と協同して意思決定することを確認する力】、【医師からの意思決定支援を交渉する力】、【選択肢の情報提供と意思決定の時期を説明する力】と命名した。

尺度の信頼性と妥当性の確認のため、6 因子の α は .907～.770 であり、確認的因子分析によりモデルの適合度を算出したところ、CFI=.944、RMSEA=.058 であった。収束的、予測的妥当性の検討では、本尺度合計点と「看護師の卓越性自己評価尺度」「看護師のアイデンティティ尺度」「看護師の職務満足測定尺度」との相関係数を確認したところ、それぞれ .597、.427、.380(いずれも $p < .001$)であった。

審査では、修正点として、自己決定と意思決定の違い、本尺度が示す意思決定支援力の概念を記述すること、概念分析・予備研究・本研究のつながりを説明すること、因子の構成概念をオタワの意思決定支援のフレームワークから再検討することなどが指摘された。これらの修正が確認され、本研究は、看護師のアドボカシー概念を構成する意思決定支援に着目し、その能力を測定する尺度を開発した研究として高く評価できた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。